

活動レポート

【探鳥会・夏鳥に会いにいこう！】

日時：2009年5月27日

場所：長良川ふれあいの森（岐阜県岐阜市）

近頃元気のいい一年生を仲間に加え、夏鳥に会いに行ってきました。ターゲットはオオルリ・キビタキ・サンコウチョウなどの声も姿も美しい鳥たちです。山の一角に、遊歩道やキャンプ場、ラベンター園などが整備されており、のんびり鳥見を楽しむには最適な場所です。みんなでお弁当を持っていざ出発！

到着するやいなやメジロ、ホトトギス、ヤマガラのをさえずりが聴こえてきます。草原に腰を下ろし、お弁当を広げて美しい声に耳を傾けました。食べる間も惜しんで図鑑を見始める人、早々と片づけスコープをのぞく人、箸を止めてさえずりを聞く人。野鳥観察の経験が短い人も長い人も全員で同じものを目的としています。本日の鳥見の目標は、一人10種類が識別できるようになること。1年生にはなかなかの難題だったのではないのでしょうか。

今回の探鳥地はサンコウチョウが繁殖していることで有名です。参加者の中にもサンコウチョウが空を舞う姿を一目見たいと参加してくれた人もちらほら。そこで、長良川ふれあいの森の管理をしておられる方に話を聞いてみることにしました。去年は遊歩道のすぐそばに巣を構えていたサンコウチョウのペアがおり、週末にはバーダーが何人も観察に訪れていました。サンコウチョウの繁殖している様子が間近で見られるとあって、毎週大賑わいだったようです。かくいう私も昨年その様子を見に行った一人でした。巣に人が近づきすぎないようにテープで囲い進入制限をしていましたが、去年のペアは繁殖を放棄してしまったと聞かされました。鳥が好きなはずのバーダーが、鳥の繁殖の妨げをしてしまったこのようなケースが往々にして存在することを目の当たりにした体験でした。…この様なことがあり、今回の観察会では、サンコウチョウの観察は取りやめることとなりました。バーダーは野鳥観察をすることで、知らず知らずのうちに彼らの生活を脅かしてしまっているかもしれません。

神妙な顔つきで悩んだのち、観察会はスタートします。2班に分かれ別ルートを散策することになりました。木漏れ日の落ちる森の中、遊歩道を散策します。気温は30度近くを予報していましたが林内は涼しく、気持ちよく歩くことができました。樹木はすっかり夏の装いをし、深い緑の葉が生い茂っています。おかげで鳥の姿を探すのは至難の業。綺麗なさえずりをたよりに必死に探すのですが、なかなか姿を見せてくれません。やっと探したキビタキも、全員が見るまでにと



でも時間がかかってしまいました。一人が発見した対象がどこにいるのか、みんなに伝えるという作業は簡単ではありません。

「キビタキ、どこにいるの？」

「そこそこ！」

「…そこってどこ!？」

こんな堂々めぐりの会話が続くこともしばしば。キビタキは細い枝をぴょんぴょん飛びながらゆっくりと移動していきます。あの高い木の左に出ている枝の真ん中でさえずっているよ、などといったわかりやすい説明方法を全員が習得するまで、キビタキは私たちの近くにいてくれました。ひとりが発見したものを全員が共有するのはとても難しいことですが、全員が同じものを見ることができたときの感動はひとしおです。



観察会は名目こそ野鳥観察ですが、せっかくの森に来て野鳥だけではだまっていられない人もいました。遊歩道の各所に設置されている、樹木の名前あてクイズをめくって樹木識別会が始まります。ほかにもちょうど食べざかりの木イチゴをつまんでみたり、池をのぞきこんでみたりと、各自思い思いの方法で観察会を楽しみました。観察された野鳥はサンコウチョウ、キビタキなどの

夏の顔に加え、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ホトトギス、イカル、ヤブサメ、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、コガラ、ヒガラなどの森の野鳥にヒヨドリ、カワセミ、ホオジロなどの普通種を加え、20種以上を識別することができました。

後日報告会では1年生が今年初めてパワーポイントを披露しました。慣れないパソコン作業に先輩の助けを借りながら、しかし1年生とは思えない堂々とした発表内容に感心させられるばかりです。今回メンバーは観察会を通し、野鳥観察の楽しさや双眼鏡の扱い方・図鑑の検索方法といった観察技術を学ぶことができました。ほかにも大勢で物事を進める方法や人を引き付けるプレゼン手法など、身に付けた経験はあふれるほどです。これを各自が今後どう使っていくのか、みんな協力しながら考えていくことができればと思います。

レポート執筆：辻愛子